

Title	学会発表
Sub Title	
Author	
Publisher	共立薬科大学
Publication year	1998
Jtitle	共立薬科大学研究年報 (The annual report of the Kyoritsu College of Pharmacy). No.43 (1998.) ,p.55- 71
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Technical Report
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062898-00000043-0055

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学 会 発 表

Miyamae T, Goshima Y, Shimizu M, Shibata T, Kawashima K, Ohshima E, Suzuki F, Misu Y. DOPA does not interact with its competitive antagonists on glutamate nor dopamine receptors. 第72回日本薬理学会年会, 札幌, Japan J Pharmacol 79 (Suppl I) : 250P (P-516), 1999. 3

Ando T, Fujii T, Kawashima K. Expression of three acetylcholinesterase mRNAs in human lymphocytes. 第72回日本薬理学会年会, 札幌, Japan J Pharmacol 79 (Suppl I) : 289P (P-671), 1999. 3

Fujii T, Kawashima K. Studies on mechanisms of neurotransmission involved in regulation of higher brain function using in vivo microdialysis technique. 第72回日本薬理学会年会, 札幌, Japan J Pharmacol 79 (Suppl I) : 14P (S5-4), 1999. 3

Fujii T, Kawashima K. Presence of two distinct intercellular calcium signaling pathways via muscarinic and nicotinic receptors in human T- and B-cell lines. 第72回日本薬理学会年会, 札幌, Japan J Pharmacol 79 (Suppl I) : 287P (P-661), 1999. 3

Kita A, Ueno S, Tsuda M, Obama T, Kawashima K, Inoue K. Establishment of PC12 cell line stably expressing heteromultimeric complex of P2X2 and P2X3 subtypes. 第72回日本薬理学会年会, 札幌, Japan J Pharmacol 79 (Suppl I) : 142P (P-81), 1999. 3

Sato KZ, Fujii T, Kawashima K. Expression of mRNA for muscarinic receptor subtypes and neuronal nicotinic receptor subunits in human mononuclear leukocytes. 第72回日本薬理学会年会, 札幌, Japan J Pharmacol 79 (Suppl I) : 48P (O-49), 1999. 3

Shimizu M, Shimamura M, Goshima Y, Miyamae T, Kawashima K, Kuroiwa Y, Misu Y. Evidence that DOPA itself induces c-Fos expression in the rat CNS. 第72回日本薬理学会年会, 札幌, Japan J Pharmacol 79 (Suppl I) : 251P (P-518), 1999. 3

Takagi R, Suzuki T, Nakamura T, Kudo Y, Kawashima K. Spontaneous synaptic excitation and acetylcholine release in co-culture of septal and hippocampal cells. 第72回日本薬理学会年会, 札幌, Japan J Pharmacol 79 (Suppl I) : 113P (O-311), 1999. 3

佐藤一生, 藤井健志, 川島紘一郎. ヒト白血病細胞株における神経型一酸化窒素 (NO) 合成酵素 (nNOS) 遺伝子発現の reverse transcription polymerase chain reaction (RT-PCR) 法による解析. 第98回日本薬理学会関東部会, 東京都, (要旨集 p67), 1998. 6

佐藤一生, 藤井健志, 川島紘一郎. ヒト末梢血単核白血球におけるニコチン性アセチルコリン (Nc) 受容体を介する細胞内 Ca^{2+} 濃度変化. 第99回日本薬理学会関東部会, 栃木県, (要旨集 p45), B-13 1998. 10

藤井健志, 佐藤一生, 渡部剛大, 松為万利佳, 川島紘一郎. Tリンパ球のアセチルコリンレセプター刺激により誘発されるカルシウムオシレーション. 第21回日本神経科学・第41回日本神経化学合同大会, 東京, (抄録集 P1-33-04), 1998. 9

藤井健志, 川島紘一郎. ヒトリンパ球における oxotremorine-M によるムスカリン受容体を介するカルシウムシグナリング機構. 第99回日本薬理学会関東部会, 栃木県, (要旨集 p44), B-12 1998. 10

Fujii T, Watanabe Y, Sato ZK, Matsui M, Kawashima K. Both muscarinic and nicotinic acetylcholine receptors mediate calcium signaling in T- and B-lymphocytes. 28th Annual meeting of Society for Neuroscience, Los Angeles, USA Abst No. 828. 16 1998. 11

Kawashima K, Fujii T, Sato ZK, Matsui M, Watanabe Y, Kojima T, Nagano T. Neuronal nitric oxide (NO) synthase mRNA expression and NO synthesis in human leukemic T cell lines. Official Satellite Symposium of the XIIIth IUPHAR World Congress of Pharmacology Biological Chemistry and Cellular Targets of Nitric Oxide, Graz, Austria Abstract #B-18, p92 1998. 7

Kawashima K, Koyama T, Nakajima Y, Fujii T. Enhancement of acetylcholine release by BAYx3702, a 5-HT_{1A} receptor agonist, in cerebral and hippocampus of freely moving rats. 13th International Congress of Pharmacology, Munchen, Germany Naunyn-Schmiedeberg's Arch Pharmacol 358 (S1) : R91 (P5. 31), 1998. 7

Kawashima K, Oosawa H, Fujii T. Facilitation of acetylcholine and vesicular acetylcholine transporter immunoreactivity by nerve growth factor in the primary cultured rat embryonic septal cells. 12th European Society for Neurochemistry Meeting, St. Petersburg, Russia J Neurochem S (1) : S21A, 1998. 7

藤井健志, 川島紘一郎. ヒトリンパ球におけるムスカリンおよびニコチン受容体を介する細胞内カルシウムイオン濃度変化. 第98回日本薬理学会関東部会, 東京, C-3 1998. 6

Suzuki T, Takagi R, Kawashima K. Glutaminergic input from hippocampal neurons evokes acetylcholine release from septal neurons under the co-cultural conditions. 28th annual meeting, Society for Neuroscience, Los Angeles, U.S.A. Abstract p1336 1998. 11

Fujimoto K, Kawashima K, Nagakura A. Plasma cimetropium monitoring in the young and elderly healthy volunteers by a specific radioimmunoassay. 13th International Congress of Pharmacology, Munchen, Germany Naunyn-Schemiedberg's Arch Pharmacol 358 : R405 (P2. 22), 1998 1998. 7

Takashina K, Bessho T, Tabata R, Kawashima K, Saito K-I. MKC-231, a novel choline uptake enhancer, improves neurochemical impairment and learning deficit in the animal models of dementia. 6th International Congress on Alzheimer's Diseases and Related Disorders, Amsterdam, Holland Abstract No. 1075 1998. 7

稲見圭子, 望月正隆. ポルフィリンモデルによる発がん物質の活性化. 日本動物実験代替法学会. 第12回大会, 仙台, 1999. 11

稲見圭子, 望月正隆. シトクロム P450 化学モデル系における 2-acetylaminofluorene の変異原性発現機構. 日本環境変異原学会第27回大会, 大阪, (発表要旨集 p111) 1998. 11

稲見圭子, 望月正隆. シトクロム P450 化学モデル系を用いた 2-アセチルアミノフルオレンの活性化機構. 日本癌学会第57回総会, 横浜, (発表要旨集 p255) 1999. 9

稲見圭子, 望月正隆. シトクロム P450 化学モデル系による芳香族アミンの活性化機構. 日本薬学会第119年会, 徳島, (講演要旨集 2) 1999. 3

月岡栄子, 北島トシ子, 清水 緑, 石井典子, 福島紀子, 望月正隆. 卒後教育における通信講座の役割. 社会薬学研究会第17回全国総会, 東京, (講演要旨集 p72-73) 1998. 9

原 猛哲, 花田 卓, 金光まひな, 望月正隆. 新規複素環式 DNA クロスリンク剤における環窒素の役割. 日本薬学会第 119 年会, 徳島, (講演要旨集 2) 1999. 3

高田雅史, 石川さと子, 望月正隆. 生薬中からの抗変異原物質の検索と作用機構. 環境変異原研究における umu 試験の役割研究集会, 大阪, (発表要旨集 p67-70) 1998. 7

時野香里, 松下洋久, 大野忠夫, 望月正隆. p53 タンパク質誘導を指標とした抗腫瘍活性物質の新規検索法の確立. 日本癌学会第 57 回総会, 横浜, (発表要旨集 p441) 1998. 10

石川さと子, 小泉理恵, 望月正隆. 活性型含塩素ニトロサミンによるアルキル化反応. 日本薬学会関東支部大会第 42 回大会, 東京, (発表要旨集 p33) 1998. 10

石川さと子, 竹腰恵美, 時野香里, 望月正隆. ヒト白血病細胞系を用いた活性型含塩素ニトロサミンの制がん性スクリーニング. 日本薬学会第 119 年会, 徳島, (講演要旨集 3 p108) 1999. 3

石川さと子, 田島めぐみ, 望月正隆. 新規インターカレートークロスリンク剤の合成とその活性. 日本環境変異原学会第 27 回大会, 大阪, (発表要旨集 p91) 1998. 11

増野匡彦, 東方安澄, 望月正隆, 奥田健介, 廣田 喬, 長野哲雄, 廣部雅昭. 水溶性フラレン誘導体の生理活性—酸化ストレス軽減効果—. 第 18 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 京都, (発表要旨集 p53) 1998. 11

増野匡彦, 飛鳥井佳世, 望月正隆. フラレン誘導体による大腸菌呼吸鎖阻害. 第 13 回生体フリーラジカル研究会, 東京, 1998. 12

増野匡彦, 望月正隆, 奥田健介, 廣田 喬, 長野哲雄, 廣部雅昭. フラレン誘導体によるグルタチオン還元酵素の阻害, 第 16 回フラレン総合シンポジウム, 岡崎, 1999. 1

増野匡彦, 望月正隆, 奥田健介, 廣田 喬, 長野哲雄, 廣部雅昭. 水溶性フラレン誘導体の合成と生理活性—グルタチオン還元酵素阻害活性—. 日本薬学会関東支部大会第 42 回大会, 東京, (発表要旨集 p35) 1998. 10

増野匡彦, 望月正隆, 奥田健介, 廣田 喬, 長野哲雄, 廣部雅昭. フラレン誘導体による大腸菌酸素吸収阻害. 日本薬学会第 119 年会, 徳島, (講演要旨集 2) 1999. 3

増野匡彦, 望月正隆, 奥田健介, 廣田喬, 長野哲雄, 廣部雅昭. フラーレン誘導体のグルタチオン還元酵素阻害活性. 日本薬学会第 119 年会, 徳島, (講演要旨集 2) 1999. 3

尼崎泰世, 佐藤恵子, 竹内香織, 望月正隆. ナフタレン環を含む新規ビタミン E 類縁体の合成と抗酸化活性. 日本薬学会第 119 年会, 徳島, (講演要旨集 2) 1999. 3

権田良子, 竹田忠紘, 黄 静. 抗酸化活性を指標とした生薬成分の検索 (2). (財)漢方医薬研究振興財団第 7 回研究助成発表会, 東京, (発表要旨集 p20) 1998. 5

羽田紀康, 林恵理子, 竹田忠紘. 寄生動物 *Echinococcus multilocularis* 由来糖脂質の合成研究 (2) 第 20 回糖質シンポジウム札幌, (発表要旨集 p129) 1998. 7

黄 静, 荻原幸夫, 張 清華, 竹田忠紘. 四川省産薬用植物 *Ardisia mamillata* の成分研究. 日本生薬学会第 45 回年会, (発表要旨集 p167) 1998. 9

孫 朋悦, 陳 英傑, 新藤 仁, 羽田紀康, 清水訓子, 竹田忠紘. *Epimedium koreanum* の成分研究. 日本生薬学会第 45 回年会, (講演要旨集 p148) 1998. 9

土田華代, 矢部武士, 竹田忠紘, 山田陽城. 脳内 NGF 含量に及ぼす人参養栄湯及び十全大補湯の影響. 日本薬学会第 119 年会, 徳島, (発表要旨集 2 p131) 1999. 3

羽田紀康, 松崎晃子, 竹田忠紘. 無脊椎動物由来糖脂質の合成研究 (3) フトミミズ *Pheretima hilgendorfi* 由来の糖脂質. 日本薬学会第 119 年会, 徳島, (講演要旨集 2 p138) 1999. 3

権田良子, 竹田忠紘, 秋山敏行. タイ産生薬 *Anaxagorea luzonensis* の成分研究. 日本薬学会第 119 年会, 徳島, (発表要旨集 2 p146) 1999. 3

吉山友二, 西原 祥, 升 玲子, 菅家甫子, 金澤秀子, 松島美一, 宇都宮一典, 景山 茂. UV 検出 HPLC 法によるビグアナイド剤血中濃度測定法に関する検討. 第 15 回日本 TDM 学会・学術大会, 神戸, (要旨集 p84) 1998. 5

吉山友二, 西原 祥, 金澤秀子, 菅家甫子, 川井龍美, 菊野史豊, 宇都宮一典. 抗糖尿病薬メトホルミンの臨床評価と体内動態に関する検討. 第 7 回クリニカルファーマシーシンポジウム, 前橋, (講演要旨集 p207-208) 1998. 6

吉山友二, 西原 祥, 山本千裕, 矢崎知子, 菅家甫子, 金沢秀子, 松島美一, 宇都宮一典, 景山 茂. メトホルミン体内動態に及ぼす二, 三の消化管薬併用の影響. 第15回日本TDM学会・学術大会, 神戸, (発表要旨集 p82) 1998. 5

吉山友二, 原 愛, 菅家甫子, 朝井 慶. 新規超音波ネブライザーにおける薬剤安定性, 日本薬学会第119年会, 徳島, (講演要旨集 p165) 1998. 3

吉山友二. 会長指名講演「臨床薬学よりみたネブライザー療法」. 第22回医用エアロゾル研究会, 川崎, (抄録集 p15-16) 1998. 9

Kanke M. Pharmaceutical Education in Japan. World Congress on Pharmacy Education, New Orleans, U.S.A. abstract 1998. 4. 7 ~ 9

Yoshiyama Y, Kanke M. Effect of age on temporal variation in Pharmacokinetics of isepamicin in rats. The 9th Japanese-American Conference on Pharmacokinetics, Oita. Abstract p92 1998. 7

西原 祥, 吉山友二, 菅家甫子, 金沢秀子, 川井龍美, 菊野史豊, 宇都宮一典. 抗糖尿病薬メトホルミンの臨床評価と体内動態に関する検討. 日本薬学会第7回クリニカルファーマシーシンポジウム, (発表要旨集 p207-208) 1998. 6. 25 ~ 26

横澤紀子, 久樹典子, 杉山美樹, 上野宏美, 安次嶺ゆか, 倉沢祥貴, 川田智広, 大澤愛子, 八幡淑子, 吉山友二. 喘息患者の服薬指導における医師と薬剤師の連携—吸入剤の適正使用を中心として—. 社会薬学研究会第17回全国総会, 東京, (講演要旨集 p28-29) 1998. 9

横澤紀子, 大澤愛子, 川田智広, 倉沢祥貴, 安次嶺ゆか, 上野宏美, 杉山美樹, 久樹典子, 八幡淑子, 吉山友二. 吸入薬適正使用に向けて: 患者使用実態調査を中心に. 第22回医用エアロゾル研究会, 川崎, (抄録集 p12) 1998.9

市居陽子, 吉山友二, 加文字理江, 矢崎知子, 菅家甫子, 小高雅信, 佐野寿夫. 末期癌患者のモルヒネ体内動態に及ぼす肝機能の影響. 第15回日本TDM学会・学術大会, 神戸, (要旨集 p81) 1998. 5

市居陽子, 吉山友二, 菅家甫子. 米国におけるCommunity Pharmacyの社会的役割. 社会薬学研究会第17回全国総会, 東京, (講演要旨集 p68-69) 1998. 9

菅家甫子. 薬学教育の新たな挑戦—1ヶ月実習を実施して, 第17回社会薬学研究会全国総会, (講演要旨集 p8) 1998. 9. 26

多田けい子, 吉山友二, 吉野清高, 平野公晟, 菅家甫子. 医薬品副作用情報の伝達システムの現状と臨床への反映度について—テルフェナジンの緊急安全性情報をモデルに一. 第8回日本病院薬学会, 横浜, (講演要旨集 p340) 1998. 9

中瀬雄三, 朝井 慶, 吉山友二. エアロゾル研究動向と新規超音波ネブライザー: Respiratory drug Delivery IV 報告を中心に. 第22回医用エアロゾル研究会, 川崎, (抄録集 p1) 1998. 9

朝井 慶, 中瀬雄三, 吉山友二. 新規超音波ネブライザーについて. 第22回医用エアロゾル研究会, 川崎, (抄録集 p2) 1998. 9

田邊由紀, 吉山友二, 菅家甫子, 川井龍美, 菊野史豊, 宇都宮一典. 糖尿病性腎症に対するACE阻害剤の臨床的有用性の検討. 第8回日本病院薬学会, 横浜, (講演要旨集 p378) 1998. 9

市川裕季子, 竹鼻 眞, 小林静子, 西山信好. 小脳顆粒細胞のアポトーシスとビタミン B₁₂. 第71回日本生化学会大会 p1052 1998. 8

市川裕季子, 竹鼻 眞, 小林静子, 西山信好. 低カリウム培地移行に伴うラット培養小脳顆粒細胞へのメチルコバラミンの作用. 日本薬学会第118年会 1998. 4

市川裕季子, 竹鼻 眞, 小林静子, 西山信好. 小脳顆粒細胞のアポトーシスとビタミン B₁₂ 第71回日本生化学会, (発表要旨集 p1052) 1998

市川裕季子, 竹鼻 眞, 小林静子, 西山信好. ポリアミン合成系による神経細胞のアポトーシス制御. 日本薬学会第119年会 (講演要旨集 3 p99) 1999

Nakayama S, Takehana M, Itoh S, Ogata E, Kobayashi S. Protective effects of a stable water-soluble vitamin E on photodamage induced by UVB irradiation in cultured mouse skin. Photomed Photobiol 20, p99-100, 1998

Tanaka M, Takehana M, Kobayashi S. Expression of a small heat shock protein (HSP27) in mouse skin tumors induced by UVB-irradiation. Photomed Photobiol 20, p39-40, 1998

Takehana M. Cataract formation and mRNA expression of MIP26 in Shumiya cataract rat (SCR) (招待講演) 2nd Asian Cataract Research Conference, Pusan, Korea p58 1998. 6

正辻詠子, 続木 敏, 伊東 忍, 小方英二, **中山悟美**, **竹鼻 眞**, **小林静子**. 紫外線 B 波照射による皮膚障害に対するアスコルビン酸リン酸エステルの投与効果, 日本薬学会第 119 年会, (講演要旨集 3, 123) 1999

清水佳代子, **岡美佳子**, **竹鼻 眞**, **小林静子**. 水晶体上皮細胞のレントイドボディ形成. 日本薬学会第 118 年会 1998. 4

清水佳代子, **竹鼻 眞**, **小林静子**. 水晶体レントイドボディ形成とタンパク質の誘導. 第 25 回水晶体研究会 p44 1999. 1

清水佳代子, **竹鼻 眞**, **小林静子**. 水晶体上皮細胞のレントイドボディ形成に関する因子. 第 37 回日本白内障学会, p80 1998. 5

清水佳代子, **岡美佳子**, **竹鼻 眞**, **小林静子**. 水晶体上皮細胞のレントイドボディ形成. 第 71 回日本生化学会, (発表要旨集 p938) 1998

清水佳代子, **竹鼻 眞**, **小林静子**. 水晶体レントイドボディ形成とタンパク質の誘導. 第 25 回日本水晶体研究会, (発表要旨集 p25) 1999

浅見優子, **竹鼻 眞**, **小林静子**. ラット水晶体 MIP26K の変動. 第 25 回水晶体研究会 p43 1999. 1

竹鼻 眞. 水晶体のストレス応答および膜機能からみた混濁発生. 第 102 回日本眼科学会総会 (シンポジウム) p120 1998. 4

中山悟美, **小林浩美**, **小檜山優子**, **吉田登希**, **小林静子**, **竹鼻 眞**, **伊東 忍**, **小方英二**. 皮膚の紫外線 B 波照射障害に対する α -トコフェロールリン酸エステルの投与効果. 日本薬学会第 119 年会, (演要旨集 3) 122 1999

中山悟美, **小林静子**, **伊東 忍**, **小方英二**. 紫外線 B 波照射による皮膚障害に対するアスコルビン酸リン酸エステルの投与効果. 第 23 回日本化粧品科学会, (発表要旨集 p40) 1998

中山悟美, 小林静子, 竹鼻 眞, 伊東 忍, 小方英二. 皮膚の紫外線照射障害に対する安定型, 水溶性ビタミン E の投与効果, 第 20 回日本光医学・光生物学会, (発表要旨集 p39) 1998

田中 操, 岩間絵里, 柿木祥枝, 加来由樹子, 竹鼻 眞, 小林静子. UVB 照射による皮膚扁平上皮がんにおける HSP27 の発現. 日本薬学会第 118 年会 1998. 4

田中 操, 菅谷正恵, 滝沢里絵子, 鍋田早苗, 竹鼻 眞, 小林静子. UVB 照射誘導による皮膚扁平上皮がん細胞における HSP27 の発現. 日本薬学会第 119 年会, (講演要旨集 3, 98) 1999

田中 操, 竹鼻 眞, 小林静子. UVB 照射により形成された腫瘍における HSP27 の発現の検討. 第 20 回日本光医学・光生物学会, (発表要旨集 p57) 1998

田中 操, 竹鼻 眞, 小林静子. 紫外線 B 波照射によって発症した皮膚扁平上皮がんにおける HSP27 の発現. 第 71 回日本生化学会, (発表要旨集 p1001) 1998

富塚江利子, 田中 操, 竹鼻 眞, 小林静子. UVB 照射により誘導されたマウス皮膚腫瘍における p53 および ras 遺伝子の変異スペクトラム. 日本薬学会第 118 年会 1998. 4

伊藤永一, 中村寛夫, 斉藤憲, 中村花野子, 城宜嗣, 飯塚哲太郎. 酸素センサータンパク質 FixL の機能性アミノ酸残基の同定. 第 21 回日本分子生物学会年会. プログラム (講演要旨集 p116) 1998

斉藤 憲, 中村寛夫, 中村花野子, 伊藤永一, 田村浩二, 城 宜嗣, 飯塚鉄太郎. 酸素センサータンパク質 FixL の分子内情報伝達の解析. 第 71 回日本生化学会大会生化学, 70, 873, 1998

中村花野子, 中村寛夫, 斉藤 憲, 伊藤永一, 田村浩二, 城宜嗣, 飯塚哲太郎. 酸素センサー蛋白質 FixL の分子内制御におけるヘムドメインの役割. 第 71 回日本生化学会大会, 生化学 70, 872, 1998

中村寛夫, 中村花野子, 宮武秀行, 田村浩二, 足立伸一, 城 宜嗣, 飯塚哲太郎. Two component system の酸素センサーキナーゼ FixL. 第 71 回日本生化学会大会生化学 70, 708, 1998

松島美一, 渥美僚子, 金沢秀子, 木津純子. LC/MS を用いた血中テオフィリンとその代謝物の分離定量. 第 14 回ライフサポート学会大会, 大分, (発表要旨集 p133) 1998. 10

松島美一, 永田佳子. α -トコフェロール水溶液の銅 (II) イオン触媒酸素酸化. 第 9 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム, 熊本, (発表要旨集 p160) 1998. 5

松島美一, 金沢秀子. 環境応答性高分子を用いたクロマトグラフィー充填剤の開発. 第 2 回分析化学東京シンポジウム, 幕張, (発表要旨集 p128) 1998. 9

Mashige F, Miyata C, Kanazawa H, Matsushima Y, Nakahara K. Simultaneous Determination of Catecholamines, Their Basic Metabolites And Serotonin in Urine by High-Performance Liquid Chromatography using a Mixed-Mode Column and an Eight Channel Electrochemical Detector. 8th Asian-Pacific Congress of Clinical Biochemistry p126 1998. 10. 12 ~ 16

Kanazawa H, Matsushima Y, Kikuchi A, Okano T. Temperature-responsive chromatography International Symposium on Smart Polymer in Industry and Medicine, Kobe, Japan Abstract p155-156 1998. 6

Mashige F, Miyata C, Kanazawa H, Matsushima Y, Nakahara K. Simultaneous determination of catecholamines, their basic metabolites in urine by high performance liquid chromatography using a mix-mode column and an eighty channel electrochemical detector. 8th Asian-Pacific Congress of Clinical Biochemistry, Kuala Lumpur, Malaysia Abstract p126 1998. 10

渥美僚子, 金澤秀子, 松島美一. LC/MS を用いたテオフィリンとその代謝物の同時定量. 日本分析化学会第 47 年会, (発表要旨集 p341) 1998. 10. 6 ~ 8

金澤秀子, 与田玲子, 松島美一, 菊池明彦, 岡野光夫. 環境認識高分子の合成と HPLC 充填剤への応用. 日本分析化学会第 47 年会, (発表要旨集 p253) 1998. 10. 6 ~ 8

勝野隆司, 金澤秀子, 松島美一, 高井信治, 菊池明彦, 岡野光夫. 機能性高分子を用いた温度応答性クロマトグラフィー. 日本分析化学会第 47 年会, (発表要旨集 p252) 1998. 10. 6 ~ 8

渥美僚子, 金沢秀子, 松島美一. LC/MS を用いたテオフィリンとその代謝物の同時分析. 日本分析化学会第 47 年会, 岐阜, (発表要旨集 p341) 1998. 10

安西和紀, 小沢俊彦, 古河良子, 松島美一. スピントラップ剤 DMPO の膜透過速度の測定. 日本薬学会第 119 年会, 徳島, (発表要旨集 4 p106) 1999. 3

金秀沢子, 与田玲子, 松島美一, 菊池明彦, 岡野光夫. 環境応答性高分子を用いた HPLC 用充填剤. 第 5 回クロマトグラフィーシンポジウム, 西宮, (発表要旨集 p116-117) 1998. 8

勝野隆司, 金沢秀子, 松島美一, 高井信治, 菊池明彦, 岡野光夫. 機能性高分子を用いた温度応答性クロマトグラフィー. 日本分析化学会第 47 年会, 岐阜, (発表要旨集 p252) 1998. 10

西原祥, 升玲子, 吉山友二, 菅家甫子, 金沢秀子, 松島美一, 宇都宮一典, 景山茂. UV 検出 HPLC 法によるピグアナイド剤血中濃度測定法に関する検討. 第 15 回日本 TDM 学会・学術大会, 神戸, (発表要旨集 p84) 1998. 5

西尾たまも, 永田佳子, 松島美一. α -Tocopherol 類似体 (2,2,5,7,8-Pentamethyl-6-chromanol) と NO の O₂ 共存下の反応. 日本薬学会第 119 年会, 徳島, (発表要旨集 4 p102) 1999. 3

西尾たまも, 永田佳子, 松島美一. ビタミン E 類縁化合物と NO の O₂ 共存下の反応. 第 10 回ビタミン E 研究会, 札幌, (発表要旨集 p21) 1999. 1

國東祐子, 金沢秀子, 松島美一. キラルカラムを用いた HPLC による医薬品光学異性体の分離. 日本分析化学会第 47 年会, 岐阜, (発表要旨集 p341) 1998. 10

松本佳代子, 福島紀子, 伊藤実花, 早川友紀, 安永美和. 医薬品の規制緩和について— OTC 薬に関する消費者の意識より—, 日本薬学会, 徳島, (発表要旨集 4 p215) 1999. 3

松本佳代子, 福島紀子, 市川裕美子, 久米夏子, 角田佳子, 手塚理恵, 坂井尚子. 添付文書のあり方—薬剤師業務を行うにあたって—, 第 31 回日本薬剤師会学術大会, 札幌, (講演要旨集 p123) 1998. 9

松本佳代子, 福島紀子, 西野入千香, 景山恭子. バイアグラに見る医薬品情報のあり方. 日本薬学会, 第 119 年会, 徳島, (講演要旨集 4 p215) 1999. 3

佐藤雅男, 松本佳代子, 福島紀子. 調剤業務シミュレーションによる初等薬剤師教育. 日本薬学会, 第 119 年会, 徳島, (講演要旨集 4 p199) 1999. 3

坂井尚子, 福島紀子, 松本佳代子. 女子薬剤師における就業パターンの動向について—医師・歯科医師・薬剤師調査に基づく分析—, 社会薬学研究会, 第17回全国総会, 東京, (講演要旨集 p74-75) 1998. 9

坂井尚子, 福島紀子, 松本佳代子. 薬に関連した支援の実態と地域関係者間の連携に関する検討—無償ボランティアと地域関係者—, 日本薬学会, 徳島, (発表要旨集 4) p215 1999. 3

坂井尚子, 福島紀子, 松本佳代子, 松田普哉. 在宅ケアにおける薬剤師のあり方に関する分析. 第57回日本公衆衛生学会. 岐阜, (発表要旨集 45) (10) p36 3 1998. 10

福島紀子, 松本佳代子, 伊藤実花, 早川友紀, 安永美和. 医薬品の規制緩和について—OTC薬に対する消費者の意識より—, 日本薬学会第119年会, 徳島, (講演要旨集 4) p215 1999. 3

福島紀子, 松本佳代子, 神長厚子, 小西玉恵, 大塚紀子, 片岡麗子, 松岡徳子, 柳川忠二. 分業移行期における外来患者の薬局選択基準. 第31回日本薬剤師会学術大会, 札幌, (講演要旨集 p124) 1998. 9

西澤秀幸, 庄子知子, 阿部芳廣. 調製を目的とした双流向流分配クロマトグラフ法の開発研究. 日本分析化学会第47年会, 岐阜, (発表要旨集 p256) 1998. 10

西澤秀幸, 田原佳代子, 阿部芳廣. True Moving Bed Chromatography : 双流型固一液向流分配クロマトグラフ法の開発研究. 日本分析化学会第47年会, 岐阜, (発表要旨集 p255) 1998. 10

阿部芳廣, 越地由記, 庄子知子, 西澤秀幸. ウシ血清アルブミンに存在するダンシルアミノ酸に対する光学選択的な結合部位について. 日本薬学会第119年会, (発表要旨集 4 p63) 1999. 3

曾 瑤, 小田泰子, 笠原 忠. 培養細胞におけるケモカイン産生への合成エストロゲン関連化合物の影響. 第42回日本薬学会関東支部大会, (発表要旨集 p51) 1998. 9

曾 瑤, 小田泰子, 笠原 忠. IFN- γ により活性化したマウスマクロファージ細胞株へのDES関連化合物の影響. 日本インターフェロン・サイトカイン学術総会・学術集会, (発表要旨集 p67) 1998. 7

曾 瑤, 小田泰子, 鈴木靖子, 清水宣明, 半田 宏, 笠原 忠. 活性化マクロファージ細胞株による炎症性サイトカイン産生への(+)-および(-)-Indenestrol A の影響 日本薬学会第119年会, (発表要旨集 p67) 1999. 3

横田恵理子, 園田よし子, 太田成男, 笠原 忠. アラキドン酸リポキシゲナーゼ阻害薬で誘導されるアポトーシスにおける caspase 活性化と Bcl-2 ファミリータンパク質. 第71回日本生化学会大会, 名古屋, (発表要旨集 p943) 1998. 10

佐々木晴代, 永石恵子, 安達玲子, 松井幸子, 最上知子, 山口照英, 笠原 忠, 早川堯夫, 鈴木和博. 食細胞の機能発現に対する Herbimycin A, 第71回日本生化学会大会, 名古屋, (発表要旨集 p945) 1998. 10

三保泰子, 浦瀬香子, 笠原 忠, 桃井 隆. 神経分化過程における細胞死の制御機構. 第71回日本生化学会大会, 名古屋, (発表要旨集 p943) 1998. 10

小田泰子, 曾 瑤, 窪田弘子, 八木博子, 笠原 忠. 天然エストロゲン関連化合物の活性化マクロファージ細胞株への影響. 日本薬学会第119年会, (発表要旨集 p67) 1999. 3

松井幸子, 安達玲子, 佐々木晴代, 山口照英, 笠原 忠, 早川堯夫, 鈴木和博. 白血球機能発現におけるコフィリンの役割とチロシンキナーゼの関与について. 第28回日本免疫学会総会, 神戸, Abstract p313 1998. 12

Oda T, Tsuchiya T, Sato Y, Kasahara T, Yasukochi Y. Estrogen Receptor-Mediated Transcriptional Activation by Natural and Synthetic Estrogen. 4th International Symposium on Predictive Oncology and Therapy Cancer Detection and Prevention 22, Supplement, 1, S-211 1998. 10

Sonoda Y, Watanabe S, Aizu-Yokota E, Kasahara T. Overexpression of focal adhesion kinase reduces oxidative stress-induced apoptosis in a human promyelocyte cell line, HL-60 subline. 33rd Annual Meeting of Society for Leukocyte Biology, California, U.S.A. Abstract p10 1998. 8

Ueno M, Kasahara T, Sonoda Y, Mukaida N. Differential induction of JE MCP-1 in sublines from a murine macrophage cell line, RAW264.7 Role of NF- κ B-like binding protein VIIth International Symposium of Molecular and Cellular Biology of Macrophages Abstract p76 1998. 6

Watanabe S, Sonoda Y, Ueno M, Aizu-Yokota E, Makuta Y, Kasahara T. FAK is the upstream signal protein of the PI3K-Akt survival pathway in hydrogen peroxide-induced apoptosis of a human glioblastoma cell line. 第28回日本免疫学会総会, 神戸, Abstract p291 1998. 12

緒方正裕, 遠藤豊成, 浦野四郎, 新家一男, 瀬戸治男. Dipropofol の脳神経細胞の毒性に対する抗酸化物質の効果. ビタミンE研究会, 札幌, (講演要旨集3) p16 1999. 1

緒方正裕, 遠藤豊成, 浦野四郎, 新家一男, 瀬戸治男. Dipropofol の神経細胞保護作用 (2). 日本薬学会, 第119年会, 徳島, (講演要旨集3) p70 1999. 3

Ogata M, Shinya K, Endo T, Urano S, Seto H. Neuronal cell Protecting Substance, dipropofol and propofol. VVI Biennal Meeting, International Society for Free Radical Research. Abstract p178 1998. 10

下遠野久美子, 遠藤豊成. *Bacillus brevis* の edeine-B1 変換酵素について (6). *Bacillus subtilis* 中の edeine B1 変換酵素. 日本薬学会, 第119年会, 徳島, (講演要旨集3) p171 1999. 3

星 緑, 緒方正裕, 遠藤豊成. Antibiotic K-41 の変換 (9). 日本薬学会, 第119年会, 徳島, (講演要旨集3) p171 1999. 3

村瀬裕子, 高信亜希子, 米倉真由子, 村上 勲, 本間義夫. 液体シンチレーションスペクトロメータおよびIPを用いた平衡等価ラドン濃度の測定. 日本薬学会第119年会, 徳島, (発表要旨集4) p126 1999. 3

村瀬裕子, 高信亜希子, 米倉真由子, 本間義夫. Bas system の β 線, γ 線に対する計数効率のエネルギー依存性について. 日本薬学会第119年会, 徳島, (発表要旨集4) p126 1999. 3

Homma Y, Murase Y, Murakami I, Handa K, Horiuchi K. Evaluation of factors influencing measurements of environmental ^{222}Rn concentrations-1. Radon and thron in human environment, Fukuoka, 61-66 1998

河村和紀, 本間義夫, 石渡喜一, 石井信一, 島田雄平, 千田道雄, 田島久嗣, 松野聖. 新しいシグマ1受容体選択的リガンド SA6298 の C-11 標識合成とPET診断用としての予備的な in vivo 評価. 日本薬学会第119年会, 徳島, (発表要旨集4) p127 1999. 3

松永典子, 服部研之, 飯笹久, 中島恵美, 福原守雄. 個体レベルでの薬物代謝能力診断法確立とラットにおける CYP1A2 変動予測への応用. 第 119 回日本薬学会, 徳島, (発表要旨集 p145) 1999. 3

松永典子, 服部研之, 飯笹久, 福原守雄, 中島恵美. 薬物代謝能力診断法確立のための個体レベルでの CYP 分子種別測定方法の検討. 第 3 回日本薬物動態学会年会, 仙台, (講演要旨集 p194) 1998. 11

Iizasa H, Shitara K, Hyashi K, Matsushita R, Ichimura F, Nakashima E. Chemokines in Cancer Gene Therapy 9th. Japanese-American Conference, Nagoya Japan Abstract p81 1998. 7

Nakashima E, Iizasa H, Hattori K, Matsushita R, Ichimura F. A Candidate for cancer gene therapy : the effects of MIP-1 α gene transfer to an adenocarcinoma cell line on tumorigenicity and protective immunity in mice. 4th. International Symposium on Predictive oncology and therapy, Nice France Abstract S-241 1998. 10

井澤美苗, 中島恵美, 田端一恵, 辻本豪三, 越田理恵, 中島慎一, 井澤志名野. 介護者向け薬剤情報集の作成—薬学部学生によるお母さんのための薬剤情報集—. 第 31 回日本薬剤師学会大会, 札幌, (発表要旨集 p244) 1998. 9

設楽香織, 尾崎永二郎, 松下 良, 市村藤雄, 中島恵美. 遺伝子製剤の開発と TDM (8) : huMIP-1 α 遺伝子導入マウス結腸癌 Colon 26 細胞の腫瘍ワクチン化の検討. 第 118 回日本薬学会, 京都, (発表要旨集 p155) 1998. 4

中晴徹, 石崎純子, 松下 良, 市村藤雄, 竹田康男, 馬淵宏, 中島恵美. サラゾフルファピリジン服用患者における NAT 遺伝子の genotype と phenotype との相関性と患者の尿を用いた phenotyping 法の確立. 第 118 回日本薬学会, 京都, (発表要旨集 p197) 1998. 4

中島恵美, 田端一恵, 高橋 愛, 多田けい子, 服部研之, 土屋文人. 薬剤師による休薬期間の薬歴管理. 第 31 回日本薬剤師学会大会, 札幌, (発表要旨集 p43) 1998. 9

飯笹 久, 難波容子, 林 奈緒, 服部研之, 中島恵美. マウス脳毛細血管内皮細胞不死化クローンを用いた炎症反応の解析. 第 119 回日本薬学会, 徳島, (講演要旨集 p5) 1999. 3

田村悦臣, 栗原 泉, 小一原葉子, 原川礼子, 皆川真希, 松井道夫. 食品成分による小腸硫酸転移酵素の阻害. 日本薬学会第 119 年会, (講演要旨集 3) p24 1999. 3

田村悦臣, 松井道夫. 小腸硫酸転移酵素に対する食品成分の効果. 第 13 回日本薬物動態学会年会, 仙台, 薬物動態 13 卷, s292 1998

Tamura H, Harada Y, Miyawaki A, Mikoshiba K, Matsui M. Molecular cloning and expression of an olfactory-specific mouse phenol sulphotransferase cDNA of mouse nasal tissues. 12th international symposium on microsomes and drug oxidations, Montpellier, France Abstract p53 1998

佐藤智子, 田村悦臣, 松井道夫. ヒト消化管由来 Caco-2 細胞のフェノール硫酸転移酵素 (P-ST) の発現について. 日本薬学会第 119 年会, (講演要旨集 3) p23 1999. 3

永井総子, 西村真由美, 山田有里, 田村悦臣, 松井道夫, 佐藤均. Rat Estrogen Sulfotransferase 遺伝子の FISH による染色体マッピング. 日本薬学会第 119 年会, 徳島, (発表要旨集 3) p23 1999. 3

大野堅一, 荒川秀俊, 前田昌子, 与田玲子. 2-(3-methylthioureido)-thiazole をもちいたルミノール化学発光検出法とその応用. 第 118 年会, 日本薬学会, 京都, (発表要旨集 p75) 1998. 4

Arakawa H, Hosaka N, Ohno K, Kamada S, Yoda R, Tsuji A, Maeda M. New chemiluminescence assay of luminol and lucigenin using thioureido derivatives 10th international symposium on bioluminescence & chemiluminescence : Journal of bioluminescence and chemiluminescence Bologna, Italy 13 : 201-258 1998. 9

柴崎敏昭. 難治性ネフローゼ症候群での高脂血症治療薬の有用性と問題点. 第 28 回腎臓学会ランチョンセミナー, 東京, 1998. 11

柴崎敏昭, 大野岩男. 薬物性腎障害. 第 28 回腎臓学会ワークショップ, 東京, 1998. 11

池田清子, 原野昭雄, 今西昭雄, 松永貞一, 柴崎敏昭, 町田勝彦. グリコヘモグロビン測定で発見した異常ヘモグロビン症 32 例について. 第 45 回日本臨床病理学会, 高知, p227 1998. 11

小林典子, 豊田優子, 山口かよ子, 佐藤有子, 森崎益男. コレステロール生合成における C-4 位脱炭酸反応の立体化学. 日本薬学会第 119 年会, 徳島, (発表要旨集 p157) 1999. 3

野村佳子, 原 典行, 藤本善徳, 中村敦子, 大林香澄, 山田純子, 高橋恭子, 森崎益雄. Ajuga 毛状根における Cyasterone の生合成研究: [27-13C]-ステロール基質の合成. 第 119 会 日本薬学会, 徳島, (講演要旨集 2) p157 1999. 3

田保橋建, 野口泰信, 飛田和彦, 坂本一民, 横山祥子, 幸内淳一, 酒井秀樹, 阿部正彦. 新規 アミノ酸系両性界面活性剤の合成と物性. 第 37 回油化学討論会, 福岡, (発表要旨集 p123) 1998. 9

橋崎要, 伊藤智佳, 椿信之, 酒井秀樹, 横山祥子, 阿部正彦. ポリエチレングリコール修飾リポソームの界面化学的性質. 1998 年材料技術研究討論会, 東京, (発表要旨集 p87-88) 1998. 12

浅水健志, 芝紀代子, 飯島史朗, 木村 都, 永井鑑. 手術前後患者血清における糖蛋白質糖鎖の各種レクチンによる解析. 第 49 回日本電気泳動学会総会, 札幌, (大会抄録号 p15) 1998. 9

栗原由利子, 芝紀代子, 亀井幸子, 永井 鑑, 保崎清人, 飯島史朗, 木村都. 癌患者の手術前後の血中・尿中成分の変動. 第一報血中蛋白性分. 第 49 回日本臨床病理学会, 高知, (総会号 p206) 1998. 11

黒沢秀夫, 歳川伸一, 池田勇一, 堂満憲一, 本田英比古, 小山勝一, 柴崎敏昭. ニコチン酸製剤長期投与による LP (a) の変動. 第 45 回日本臨床病理学会, 高知, p64 1998. 11

歳川伸一, 黒沢秀夫, 池田勇一, 堂満憲一, 本田英比古, 柴崎敏昭. LDL コレステロール直接測定法と超遠心法の比較と乖離について. 第 45 回日本臨床病理学会, 高知, p239 1998. 11

菅田節朗. 反応または薬物速度論の流体力学モデル—そのコンピューターシミュレーション—. 化学ソフトウェア学会年会 '98 研究討論会, 新潟, (発表要旨集 p50-51) 1998. 10

池田年穂. 揺籃期のわが国の近代薬事制度. 比較文明学会 p5 1998. 10. 31

福原潔, 永川真紀, 金子由美, 宮田直樹. レスベラトロールによる活性酸素の生成と消去. 日本環境変異原学会第 27 回大会, 大阪, (発表要旨集 p105) 1998. 11